



公益財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター

調査成果報告会

令和6年度調査

令和6年度に実施した発掘調査を振り返る調査成果報告会。今回の報告会では、長岡京跡や中世の友岡遺跡などの遺構、各時代の様々な出土遺物など、多くの成果があった調査から紹介します。

令和7年9月13日

公益財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター



令和6年度 発掘調査事業の主な成果

付表-1 発掘調査地一覧表

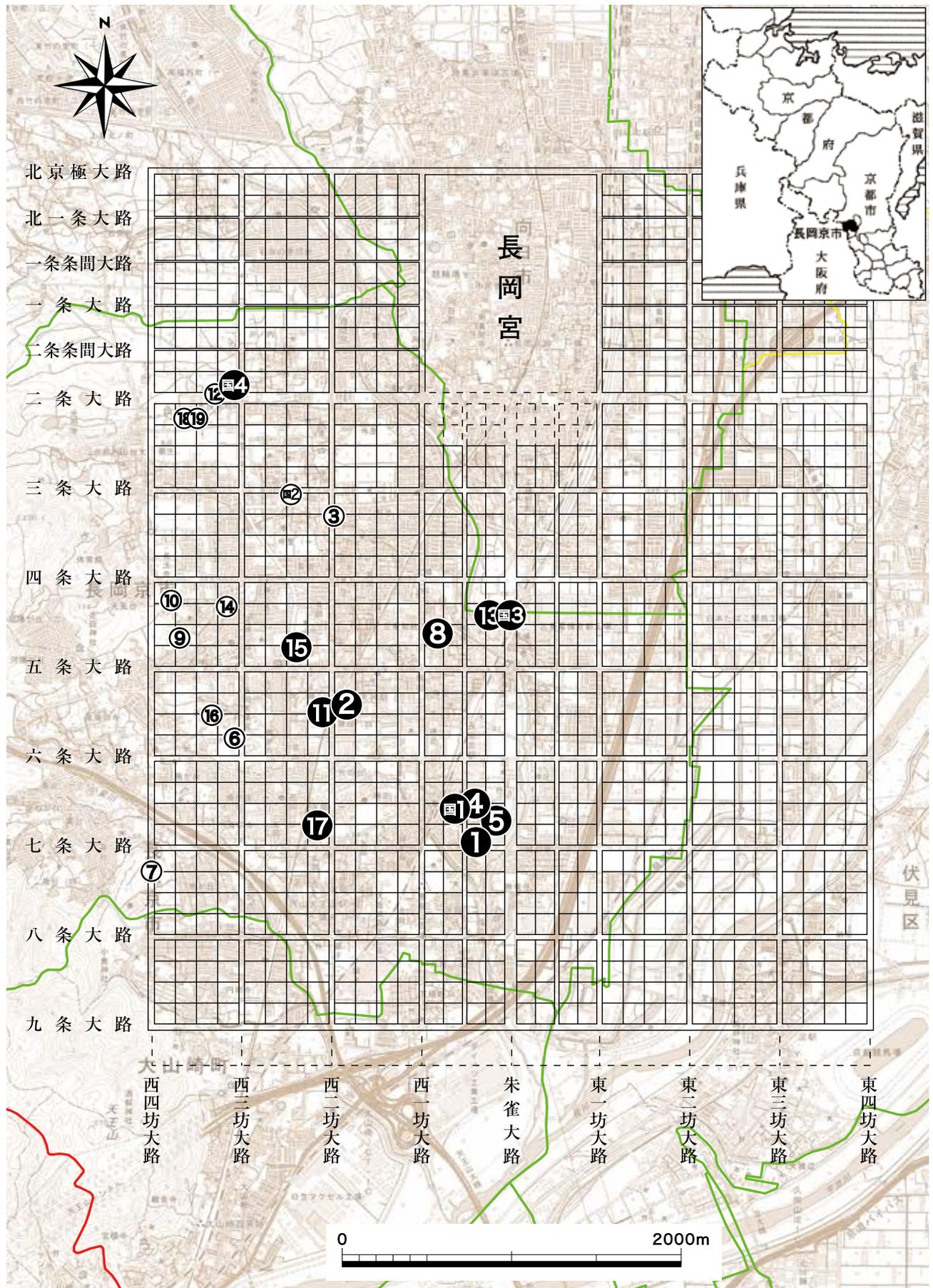
番号	調査回数	重複遺跡	住 所	調査期間	面積
1	長岡京跡 右京第 1290 次	中世勝龍寺城跡	長岡京市勝竜寺 14-2	2024 年 4 月 2 日 ～ 5 月 14 日	151㎡
2	右京第 1291 次	開田遺跡	長岡京市開田三丁目地内	2024 年 4 月 15 日 ～ 6 月 27 日	348㎡
3	右京第 1293 次	今里遺跡	長岡京市今里二丁目 45 の一 部他	2024 年 6 月 3 日 ～ 6 月 7 日	84㎡
4	右京第 1294 次	神足遺跡 中世勝龍寺城跡	長岡京市東神足二丁目 218- 1 の一部	2024 年 6 月 10 日 ～ 6 月 21 日	56㎡
5	右京第 1295 次	神足遺跡 中世勝龍寺城跡	長岡京市勝竜寺 401 番 1	2024 年 6 月 17 日 ～ 10 月 17 日	1,388㎡
6	右京第 1296 次	天神山遺跡 天神山古墳群	長岡京市天神二丁目地内	2024 年 7 月 1 日 ～ 9 月 6 日	164㎡
7	右京第 1297 次	西明寺古墳	長岡京市下海印寺西明寺 6 他	2024 年 7 月 1 日 ～ 7 月 10 日	50㎡
8	右京第 1300 次	開田古墳群	長岡京市開田一丁目 6 番の一 部他	2024 年 8 月 5 日 ～ 9 月 20 日	163㎡
9	右京第 1301 次	南平尾古墳 谷田瓦窯群	長岡京市今里南平尾 20 番	2024 年 8 月 1 日 ～ 10 月 18 日	750㎡
10	右京第 1302 次	長法寺遺跡	長岡京市長法寺力池 7-1 他	2024 年 8 月 1 日 ～ 9 月 12 日	199㎡
11	右京第 1304 次	開田城ノ内遺跡	長岡京市天神一丁目他地内	2024 年 10 月 7 日 ～ 2025 年 1 月 31 日	301㎡
12	右京第 1305 次	井ノ内遺跡	長岡京市井ノ内北海道 5-1 他	2024 年 10 月 15 日 ～ 12 月 6 日	250㎡
13	右京第 1306 次	馬場遺跡	長岡京市馬場二丁目 213 番 4 の一部	2024 年 11 月 11 日 ～ 2025 年 1 月 27 日	412㎡
14	右京第 1308 次		長岡京市天神四丁目 319 の一 部他	2024 年 12 月 2 日 ～ 2025 年 1 月 24 日	236㎡
15	右京第 1309 次	開田城ノ内遺跡	長岡京市長岡二丁目 119-1 他	2025 年 1 月 8 日 ～ 3 月 31 日	430㎡
16	右京第 1310 次		長岡京市天神二丁目 117-1 他	2025 年 2 月 3 日 ～ 2 月 21 日	114㎡
17	右京第 1311 次	友岡遺跡	長岡京市友岡一丁目 751 他	2025 年 3 月 3 日 ～ 4 月 7 日	184㎡
18	右京第 1312 次	井ノ内遺跡	長岡京市井ノ内朝日寺他	2025 年 3 月 5 日 ～ 3 月 12 日	12㎡
19	右京第 1313 次	井ノ内遺跡	長岡京市井ノ内朝日寺他	2025 年 3 月 5 日 ～ 3 月 12 日	12㎡
国 1	右京第 1294 次 (補足調査)	神足遺跡 中世勝龍寺城跡	長岡京市東神足二丁目 218- 1 の一部	2024 年 6 月 20 日	14㎡
国 2	右京第 1298 次	今里遺跡 乙訓寺	長岡京市今里三丁目 133- 1 他	2024 年 7 月 8 日 ～ 7 月 19 日	37㎡
国 3	右京第 1306 次 (補足調査)	馬場遺跡	長岡京市馬場二丁目 213 番 4 の一部	2025 年 1 月 7 日 ～ 1 月 27 日	8㎡
国 4	右京第 1307 次	井ノ内遺跡、井ノ内古墳 群、井ノ内稲荷塚古墳	長岡京市井ノ内小西地内	2024 年 12 月 2 日 ～ 2025 年 3 月 7 日	45㎡

* 太字・網掛けで示した調査の成果を掲載しています

調査でわかった主な時代



※ 掲載調査資料の右上・左上に示したマークは、調査で特に成果があった時代



- ・ 図中の番号は、付表-1「発掘調査地一覧表」に対応する
- ・ 黒地に白抜き番号の発掘調査は、次項以降に成果の概要を掲載した

▲ 発掘調査地位置図

① 長岡京跡右京第 1290 次調査

調査期間 2024 (令和6) 年4月2日～5月14日

調査地 長岡京市勝竜寺 14-2

調査遺跡 長岡京跡右京七条一坊五町、中世勝龍寺城跡

調査面積 151㎡

担当者 大高 義寛

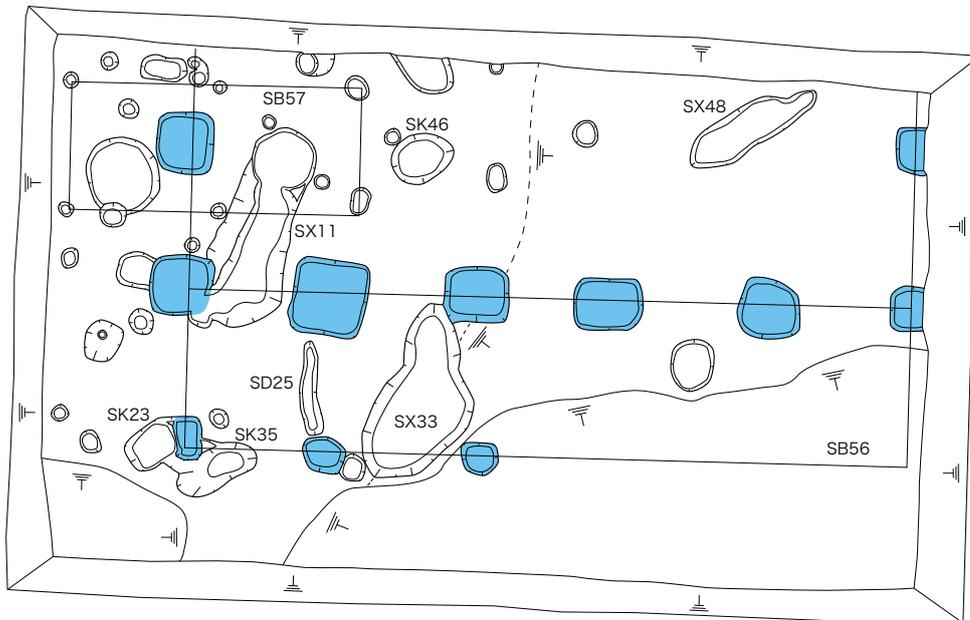
周辺地形 低位段丘Ⅱ 検出面標高 12.7 m

調査成果 (縄文・長岡京期・平安・中世)

長岡京期～平安時代初期の可能性が高い掘立柱建物、時期不明の土坑、小穴、溝などを検出しました。特に掘立柱建物は、古代寺院である勝龍寺建立以前の土地利用を示す重要な遺構です。攪乱や包含層からは近世遺物が出土しており、当該期に土地改変が行われたと考えられます。また、中世遺物を含む土坑などから、縄文土器の小片が出土しています。



▲ 調査地位置図



検出遺構図



調査区全景 (南東から)



掘立柱建物 (南西から)

▲ 調査成果図・写真

② 長岡京跡右京第 1291 次調査

調査期間 2024(令和6)年4月15日～6月27日

調査地 長岡京市開田三丁目地内

調査遺跡 長岡京跡右京六条二坊十五町、開田遺跡

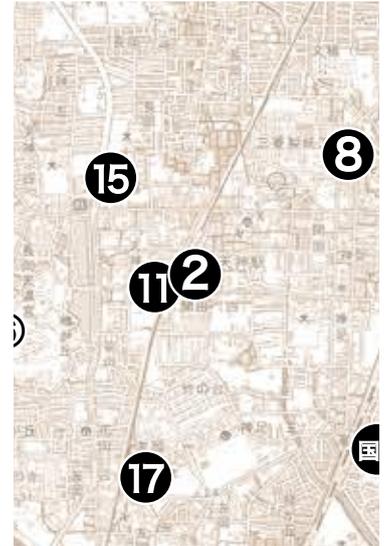
調査面積 348㎡

担当者 原 秀樹

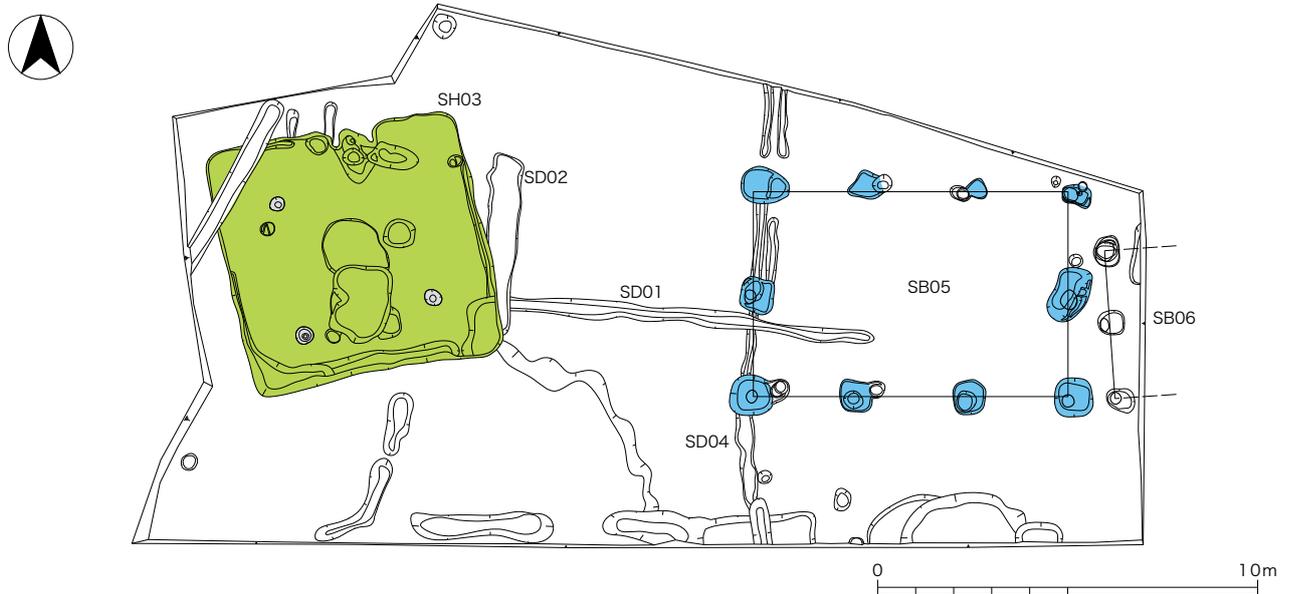
周辺地形 緩扇状地 検出面標高 21.8 m

調査成果 (古墳・長岡京期・中世)

古墳時代の竪穴建物や長岡京期の掘立柱建物、中世の溝などを検出しました。古墳時代の竪穴建物は一辺 6.5m を測り、同時期の一般的な竪穴建物の規模（一辺 5m 前後）に比べると、一回り大きなものでした。建物の北辺に設けられた馬蹄形のカマド内や周辺では、焼土や炭、土師器の壺・甕、土錘などが出土しています。



▲ 調査地位置図



検出遺構図



調査区全景（東から）



竪穴建物（南東から）

▲ 調査成果図・写真

④・① 長岡京跡右京第 1294 次調査

調査期間 2024 (令和6) 年 6 月 10 日～6 月 21 日

調査地 長岡京市東神足二丁目 218-1 の一部

調査遺跡 長岡京跡右京七条一坊十一町、中世勝龍寺城跡、神足遺跡

調査面積 本調査 56㎡、補足調査 14㎡

担当者 大高 義寛

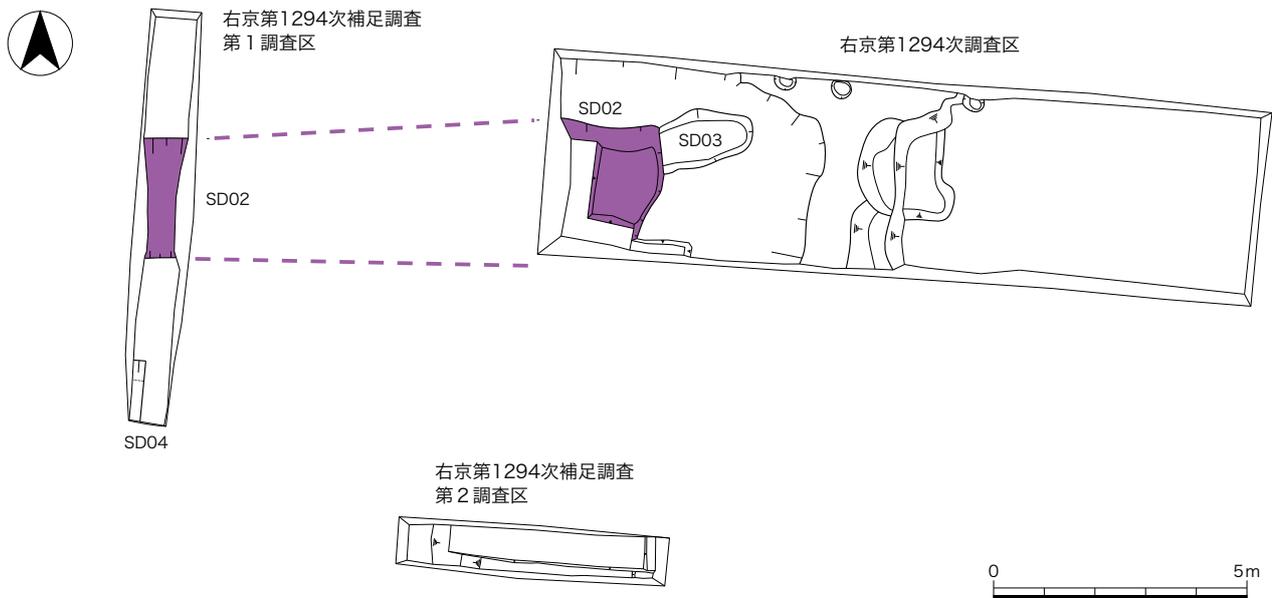
周辺地形 低位段丘Ⅱ **検出面標高** 13.9 m

調査成果 (中世・近世)

本調査及び補足調査によって、中世勝龍寺城の北門正面を遮断する東西方向の堀を検出し、北門付近の防御構造を考える上で重要な成果が得られました。また、現行の北堀延長部分が補足調査の北側調査区の地山面より低くなることも確認できました。本来の北堀は北門前で狭幅化していなかった可能性を示唆しており、前述の東西堀との関係性と併せて検討する必要があります。



▲ 調査地位置図



検出遺構図



調査区全景 (北東から)



堀 SD02 検出状況 (東から)

▲ 調査成果図・写真

⑤ 長岡京跡右京第 1295 次調査

調査期間 2024(令和6)年6月17日～10月17日

調査地 長岡京市勝竜寺401番1

調査遺跡 長岡京跡右京七条一坊三・四・六町、中世勝龍寺城跡
神足遺跡

調査面積 1388㎡

担当者 福家 恭

周辺地形 後背低地 **検出面標高** 11.3 m

調査成果 (中世・近世)

中世～近代の耕作地跡、戦国期の柱列・土坑、中世の溝・土坑などを検出しました。戦国期の遺構からは、漆器の椀や木製の下駄・櫛・羽子板などが出土しています。本調査では、中世勝龍寺城跡の東側における土地利用の変遷などを確認することができました。



▲ 調査地位置図



第3調査面 (主に鎌倉時代)



調査区全景 (東から)



第2面全景 (南東から)



木製品が出土した土坑 (北から)

▲ 調査成果図・写真

⑧ 長岡京跡右京第 1300 次調査

調査期間 2024 (令和6) 年8月5日～9月20日

調査地 長岡京市開田一丁目6番の一部他

調査遺跡 長岡京跡右京五条一坊十四町、開田古墳群

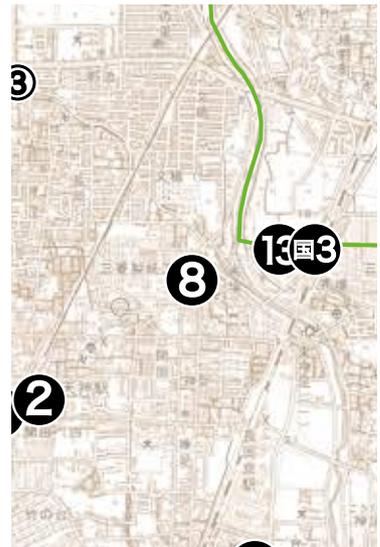
調査面積 163㎡

担当者 猿向 敏一

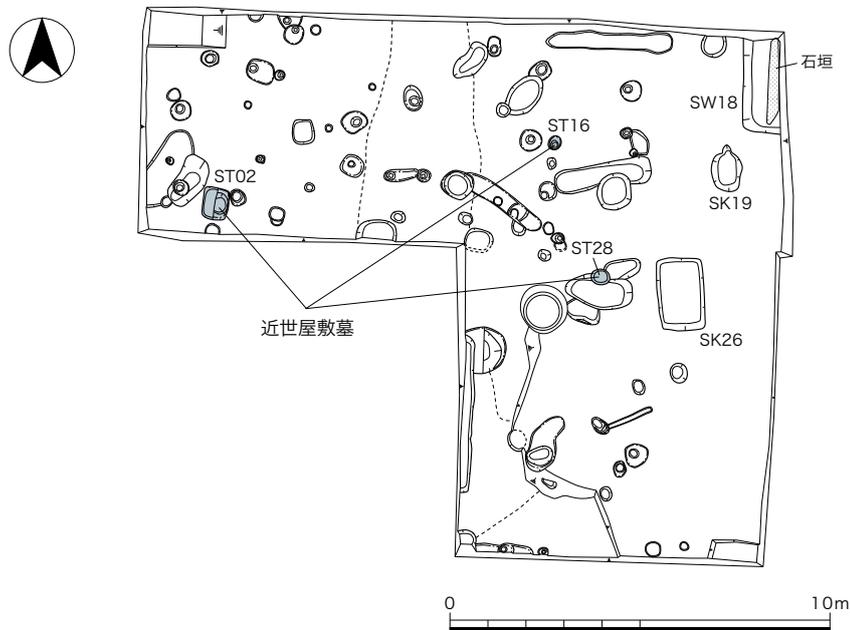
周辺地形 低位段丘 I 検出面標高 21.2 m

調査成果 (近世)

長岡京期以前の掘立柱建物のほか、近世以降の土坑・柱穴・井戸・石垣など旧西国街道沿いの町家跡を検出しました。特に、近世の土坑の中には骨片や六文銭が出土しているものがあり、こうした土坑は幼児または胎児を埋葬した屋敷墓であると考えられます。



▲ 調査地位置図



検出遺構図



調査区北半全景 (南西から)



近世の屋敷墓 ST02 (西から)

▲ 調査成果図・写真

⑪ 長岡京跡右京第 1304 次調査

調査期間 2024(令和6)年10月7日～2025(令和7)年1月31日

調査地 長岡京市天神一丁目他地内

調査遺跡 長岡京跡右京六条三坊三町、開田城ノ内遺跡

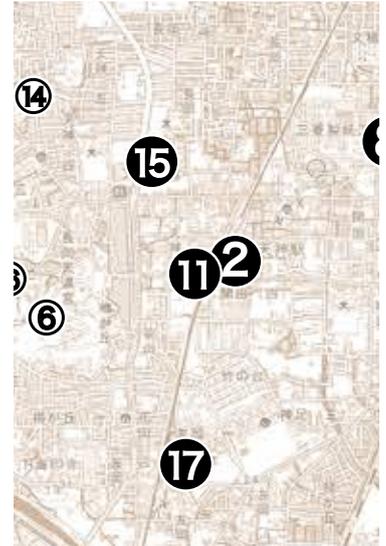
調査面積 301m²

担当者 鈴木 知怜

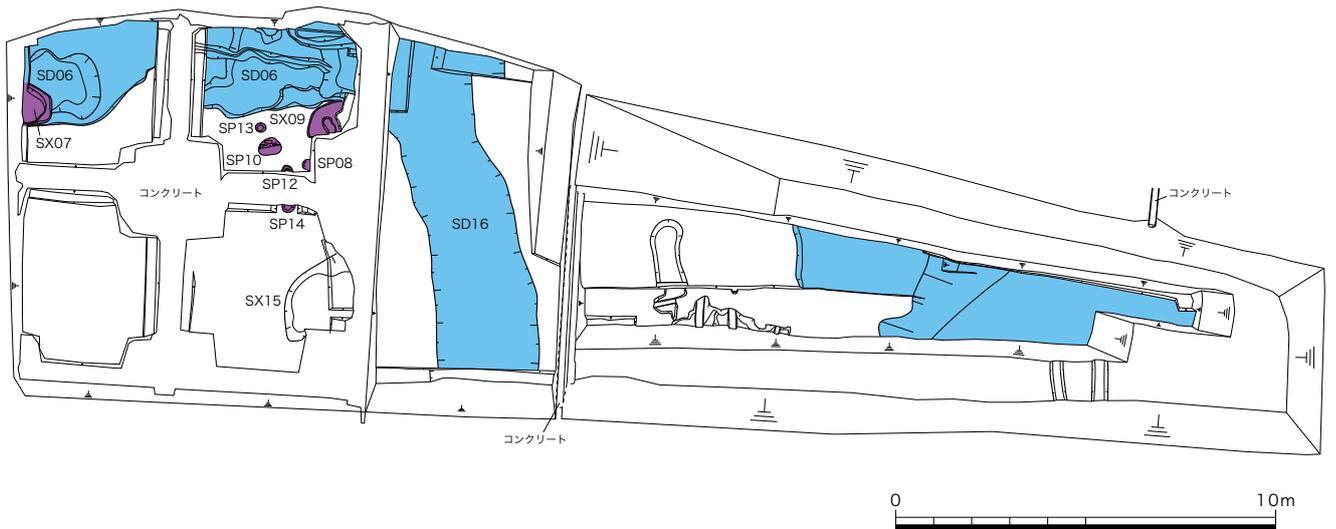
周辺地形 開析谷 **検出面標高** 22.3 m

調査成果 (長岡京期・中世)

旧地形の開析谷の落ち込み、長岡京期の溝、中世の耕作溝などを検出しました。調査地は、六条条間小路の道路部分であると考えられ、道路を北西から南東方向にかけて縦断する長岡京期の溝の最終堆積層からは、長岡京期の祭祀遺物が出土しました。



▲ 調査地位置図



検出遺構図



長岡京期の溝 (北から)



溝内で検出した杭列 (北から)

▲ 調査成果図・写真

⑬・⑬ 長岡京跡右京第 1306 次調査

調査期間 2024 (令和6) 年 11 月 11 日～2025 (令和7) 年 1 月 27 日

調査地 長岡京市馬場二丁目 213 番 4 の一部他

調査遺跡 長岡京跡右京五条一坊二町 (朱雀大路)、馬場遺跡

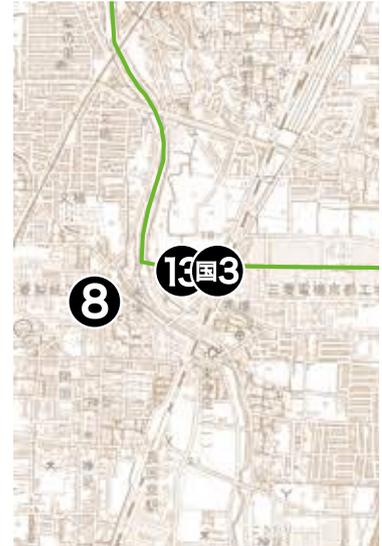
調査面積 本調査 412㎡、補足調査 8㎡

担当者 福家 恭

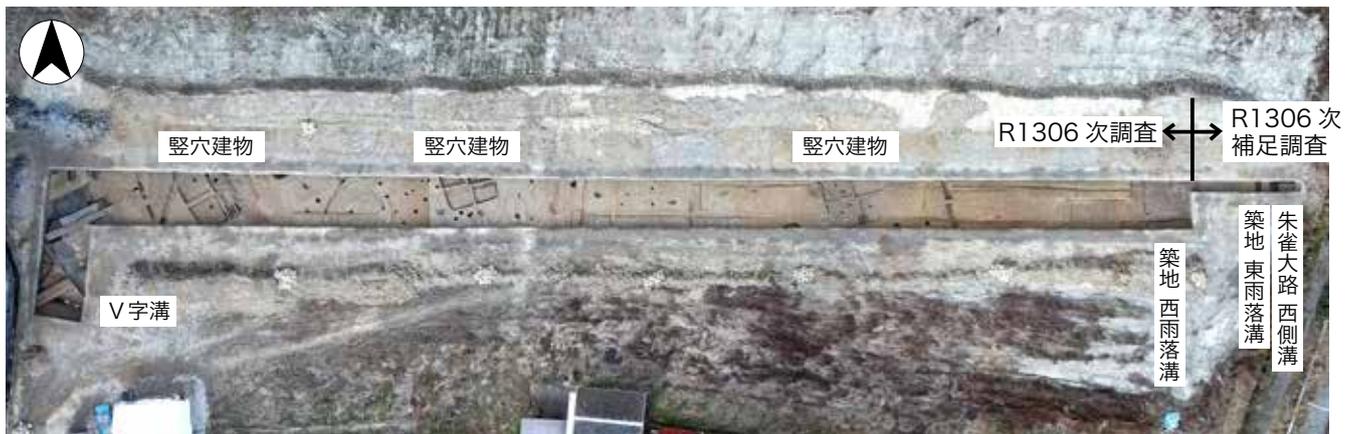
周辺地形 小畑川のつくった扇状地 検出面標高 17.5 m

調査成果 (弥生・古墳・長岡京期・中世)

弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴建物と溝、長岡京期の朱雀大路に関連する遺構群を検出しました。朱雀大路関係の遺構は国庫補助を受けて実施したもので、朱雀大路の西側溝と築地の東・西雨落溝の3本の溝を確認しました。また、左京 147 次調査の溝との距離から朱雀大路の幅が約 65 m (220 尺) である可能性が高く、少なくとも長岡京跡の五条域まで朱雀大路が整備されていた状況が明らかとなりました。



▲ 調査地位置図



遺構検出状況



V字溝 (西から)



竪穴建物 (南西から)



朱雀大路関連遺構 (東から)

▲ 調査成果図・写真

⑮ 長岡京跡右京第 1309 次調査

調査期間 2025（令和7）年1月8日～3月31日

調査地 長岡京市長岡二丁目 119-1 他

調査遺跡 長岡京跡右京五条三坊五町、開田城ノ内遺跡

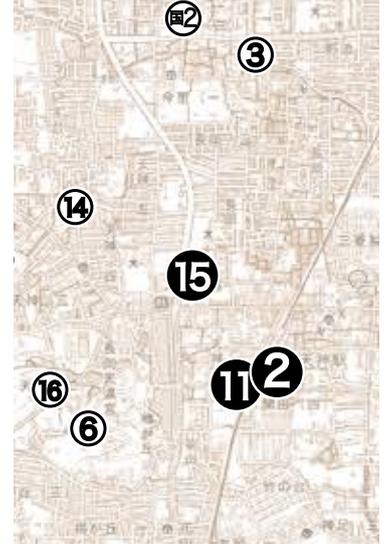
調査面積 430㎡

担当者 大高 義寛

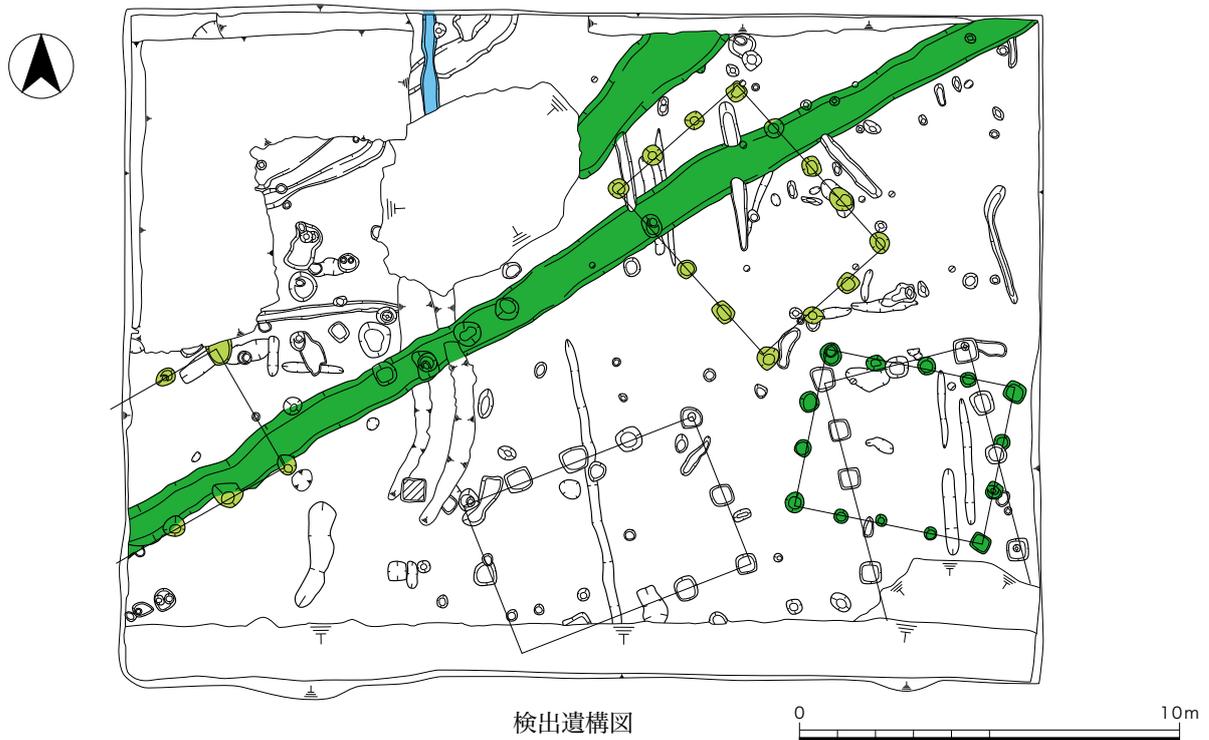
周辺地形 緩扇状地 検出面標高 25.9 m

調査成果（古墳・飛鳥・長岡京期）

古墳時代末期～飛鳥時代の掘立柱建物、溝、小穴群を検出しました。その中でも、北東-南西方向の直線的な溝は、検出長約28m、幅1.2m、深さ0.2mを測ります。過去の周辺調査で同時期の掘立柱建物群を検出し、この時期の集落の存在を確認していることから、集落北西限の区画溝であった可能性が考えられます。



▲ 調査地位置図



検出遺構図



▲ 調査区北半全景（西から）



▲ 調査区南半全景（西から）

▲ 調査成果図・写真

⑰ 長岡京跡右京第 1311 次調査

調査期間 2025（令和7）年3月3日～4月7日

調査地 長岡京市友岡一丁目 751 他

調査遺跡 長岡京跡右京七条三坊四町、友岡遺跡

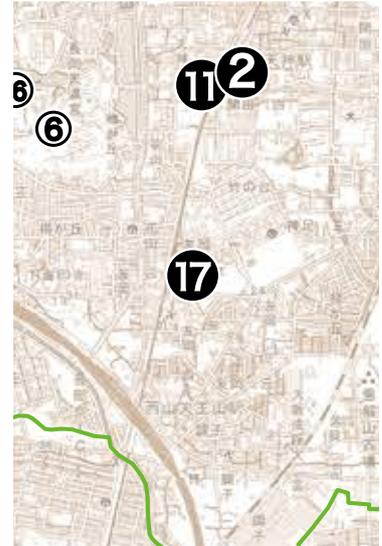
調査面積 184㎡

担当者 福家 恭

周辺地形 低位段丘 I 検出面標高 27.0 m

調査成果（中世）

調査区の東半を中心に焼土を含む中世包含層が堆積し、その下層において遺構群を検出しました。遺構には、鉄滓を多量に投棄した落ち込み、鋳型や焼土を伴う土坑、石組みの炉跡など、鋳造に関連遺構が多数見つかりました。一方、西半は掘立柱建物などの柱穴が複数確認でき、用途に応じた土地利用が考えられます。これらの遺構から中世の鋳造工房が調査地一帯に広がっていたと考えられます。



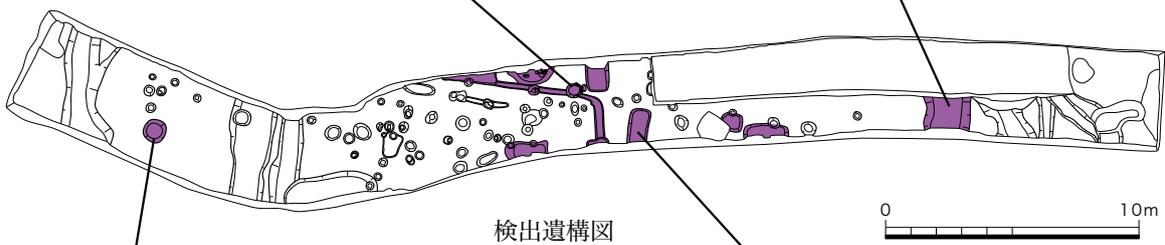
▲ 調査地位置図



◀ 石組みの炉跡
(西から)



▲ 焼土と鉄滓 (北から)



検出遺構図

0 10m



▲ 鋳造関連遺物 (北から)



▲ 鋳型 (西から)

▲ 調査成果図・写真

④ 井ノ内稲荷塚古墳第8次調査（長岡京跡右京第1307次調査）

調査期間 2024（令和6）年12月2日～2025（令和7）年3月7日

調査地 長岡京市井ノ内小西地内

調査遺跡 井ノ内稲荷塚古墳、長岡京跡右京二条三坊四町、井ノ内遺跡

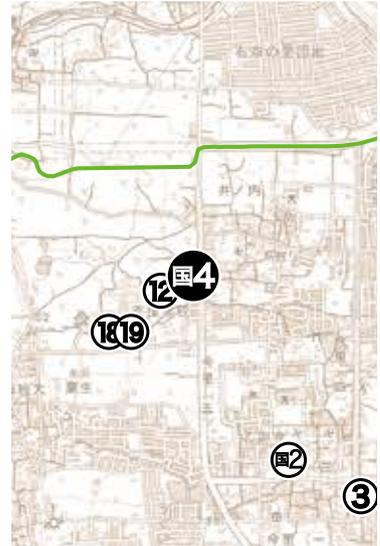
調査面積 45m²

担当者 中島 皆夫

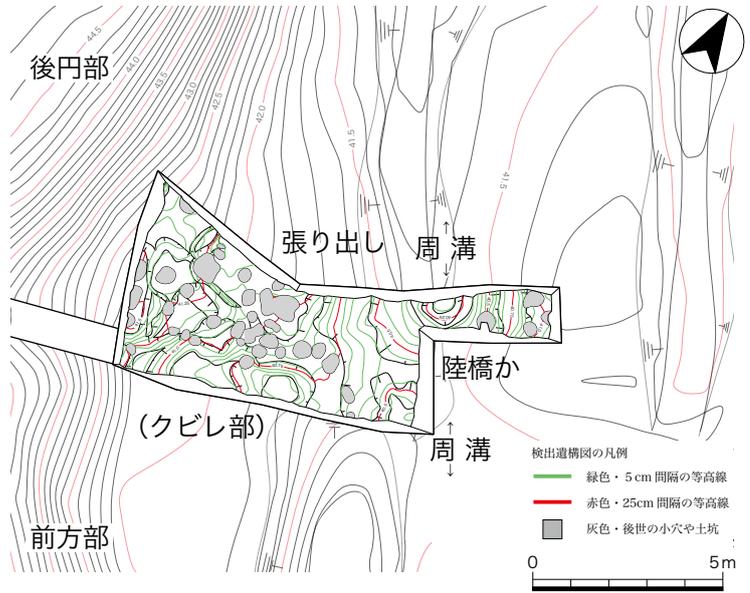
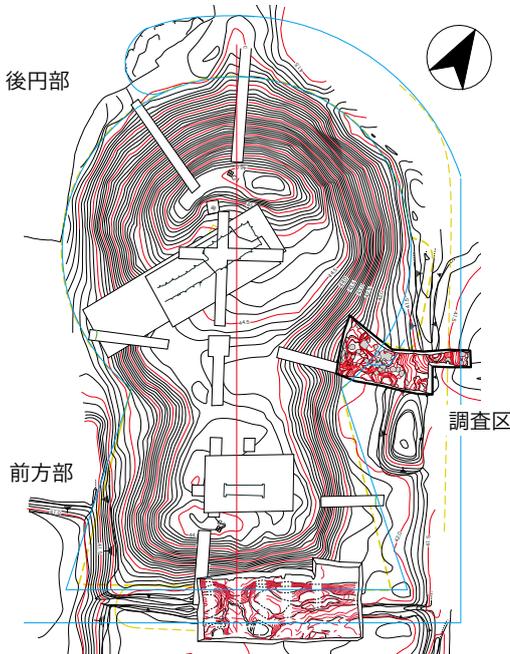
周辺地形 低位段丘 I 検出面標高 42.5 m前後

調査成果（古墳・中世）

後円部南東側のクビレ部近くで調査を実施した結果、古墳の東側にも浅い周溝が巡ることが明らかになりました。また、調査範囲が限られていたため確定できませんが、後円部の墳丘裾には小規模な張り出し状の施設や張り出し南端部から周溝内へ延びる陸橋の存在が予見されます。



▲ 調査地位置図



検出遺構図



調査区全景（東から）



調査区全景（南西から）

▲ 調査成果図・写真

メモ

